

令和4年度 第2回みえ森と緑の県民税評価委員会 事項書

日 時：令和4年8月29日（月）13：30～16：30

場 所：アスト津 4階 アストホール

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）令和3年度みえ森と緑の県民税基金事業の評価

（2）みえ森と緑の県民税条例の施行の状況についての検討

4 評価報告（答申）

5 その他

（1）令和4年度みえ森と緑の県民税基金事業計画の報告

【資料一覧】

資料 1 令和 4 年度第 2 回みえ森と緑の県民税評価委員会

出席者名簿及び配席図

資料 2 令和 4 年度第 1 回みえ森と緑の県民税評価委員会におけるご意見

資料 3 令和 3 年度みえ森と緑の県民税基金事業の評価

資料 4 答申（案）令和 3 年度みえ森と緑の県民税基金事業の実施後の

評価・提言について

資料 5 - 1 三重の森林づくりに関する県民意識調査

資料 5 - 2 みえ森と緑の県民税の施行状況の検討にかかる意見聴取

資料 6 - 1 令和 4 年度みえ森と緑の県民税基金事業・事業別評価シート

資料 6 - 2 令和 4 年度みえ森と緑の県民税基金事業（資料編）

参考資料 根拠法令等

令和4年度 第2回みえ森と緑の県民税評価委員会 出席者名簿

1. みえ森と緑の県民税評価委員

役職	委員名	出身団体等名称・役職	出欠
委員長	石川 知明	三重大学大学院生物資源学研究科教授	出席
委員	上ノ坊 淳	三重県小中学校長会幹事（紀北町立紀北中学校）	出席
委員	大浦 由美	和歌山大学観光学部教授	Web出席
委員	新海 洋子	一般社団法人SDGsコミュニティ代表理事	出席
委員	林 拙郎	三重大学名誉教授	Web出席
委員	藤井 恭子	皇學館大学現代日本社会学部准教授	Web出席
委員	松井 寿人	三重県中小企業団体中央会事務局長	出席
副委員長	三田 泰雅	四日市大学総合政策学部教授	Web出席
委員	矢田 真佐美	三重県地域婦人団体連絡協議会副会長	出席
委員	吉田 正木	吉田本家山林部代表	出席

※五十音順、敬称略

2. 事務局

〔農林水産部関係〕

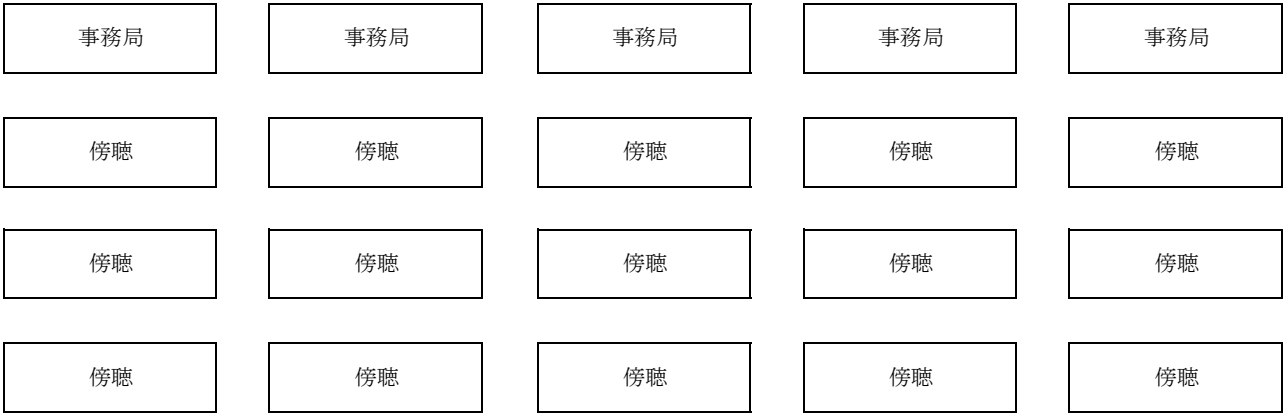
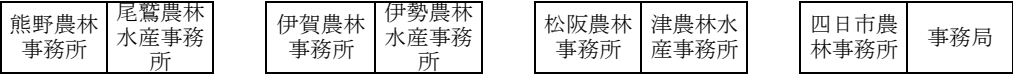
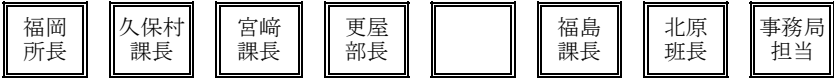
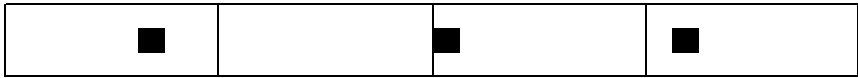
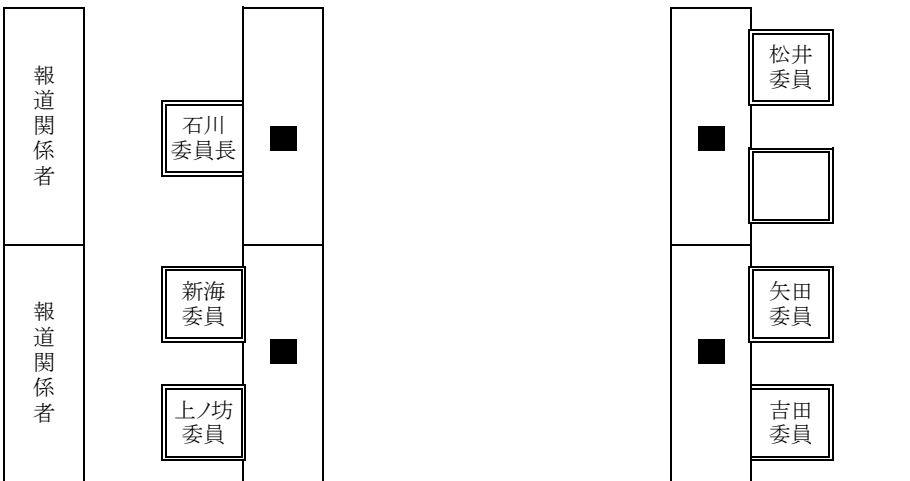
氏名	役職等	備考
更屋 英洋	農林水産部長	
木下 直也	次長（森林・林業担当）	欠席
宮崎 恵一	森林・林業経営課長	
久保村 実	治山林道課長	
福島 康広	みどり共生推進課長	
北原 善彦	みどり共生推進課みどり推進班課長補佐兼班長	
福岡 秀哉	林業研究所長	
杉野 成生	四日市農林事務所森林・林業室長	
水野 浩	津農林水産事務所森林・林業室長	
山田 長生	松阪農林事務所森林・林業室長	
澤井 秀樹	伊勢農林水産事務所森林・林業室長	
力久 秀夫	伊賀農林事務所森林・林業室長	
谷崎 寧	尾鷲農林水産事務所森林・林業室長	
滝本 義久	熊野農林事務所森林・林業室長	

令和4年度 第2回みえ森と緑の県民税評価委員会 配席図

資料1

リモート操作性

スクリーン



※長机1基当たり、2人掛け
 ※出席状況により、レイアウトを変更する場合があります。
 ※事務局・傍聴の前後は1.5m～2.0m間隔を空ける
 マイク

入口

受付

令和4年度第1回みえ森と緑の県民税評価委員会におけるご意見

1. 令和3年度みえ森と緑の県民税基金事業の実績に対するご意見
 - (1) 生物多様性推進事業（県）
 - ・経費の明細や事業の目的・成果等について、市町の見本となるようにしっかりと記載してほしい。
 - (2) 森林教育体制整備事業及びみえ森づくりサポートセンター運営事業（県）
 - ・事業の達成度について、目標数値等も示しながら、明確となるよう努めてほしい。
 - ・各種講座で育成した森林教育の指導者等について、その後どのように活動されているのか、どのように活躍の場を確保するのかなど、フォローアップする仕組みが必要である。
 - (3) 名張市
 - ・無形民俗文化財保全事業については、事業の趣旨や成果をしっかりと情報発信してほしい。
 - ・子どもから年配の方まで、いろいろな年代の方が関わる事業内容であるなど、市町交付金を有効に活用しているので、こうした取組が他の市町に共有されるよう取り組んでほしい。
 - (4) 菰野町
 - ・別添「委員会当日の意見に対する回答」のとおり
2. みえ森と緑の県民税基金事業に関する報告事項に対するご意見
 - (1) 県民税認知度の調査結果に対するご意見
 - ・高校生の年代にも情報が届く仕組みが必要である。
 - (2) 三重の森林づくりに関する県民意識調査に対するご意見
 - ・調査票の分かりやすさ等について、次回の調査があればもう少し工夫してほしい。

3. みえ森と緑の県民税基金事業全般に対するご意見

- ・県民税導入からある程度の期間が経過し、税自体の普及の時期は終わる頃だと感じており、特に、木製品の導入等については、森林とのつながりにについても発信することが必要である。

4. その他

- ・十分な議論ができるよう、時間配分について検討してほしい。

評価委員会当日の意見に対する回答

(菰野富士ふるさとの山環境整備事業)

(1) 橋の床板の安全性について、明確な根拠を示したうえで説明してほしい。
 ※耐用人数などがわかりやすい数値と現地での表示の意向(方針)含む

(回答)

立体横断施設技術基準(国土交通省)に基づき、群衆荷重として5.0KN(1KN=102kgf)/m²以上で設計されており、成人男性の体重を70kgとした場合、1m²あたり7人程度の荷重を想定したものとなっております。

また、床板については、曲げ応力で約8倍、せん断応力で約70倍の余裕を持っております。

通常想定される通行量に対しては、十分な安全性を確保しており、常時、掲示を行う必要はないと考えております。

なお、床板についてはラスコジャパン社製の再生木材(プラスチックと木粉の混合)を使用していることを申し添えます。

(2) 橋の手すりの安全性について、明確な根拠を示したうえで説明してほしい。
 ※耐用人数などがわかりやすい数値と現地での表示の意向(方針)含む

(回答)

自然公園等施設技術指針(環境省)及び防護柵の設置基準(国土交通省)に基づき、最上部にかかる水平荷重が0.39KN/m(40kgf/m)時において、塑性変形しないものとして設計されており、部材については、曲げ応力で約2倍、せん断応力で約5倍の余裕を持っております。

なお、成人男性が前向きに寄り掛かった場合の荷重を20kgf(日本アルミ手摺工業会調べ)とした場合、1mあたり2人が限度と想定されます。

構造については、十分な安全性を確保していますが、利用者が手すりに寄りかかりたり身を乗り出すといった、遊歩道の通常利用の範囲を超えた部分につきましては、安全利用に関する注意喚起を行う掲示を設置し、利用者の安全確保に努めます。

(3) 多数の集客が見込まれる場合は通行者数を制限するとのことだが、何人以上で制限を実施するのか

(回答)

前述の計算結果を考慮すると、同時に橋の上を通行できる人数は、橋長 40m の箇所において最大 80 名となりますが、2 倍の安全率を考慮して、40 名とします。

現時点では、菰野富士を活用した大規模イベント等の具体的な開催予定はありませんが、今後開催する場合においては、開催期間や集客見込み数に応じ、運営主体や警備会社等と協議を行い、密にならない程度での利用及び乗り越えや手すりへのもたれかかりなどの行為も含め、通行時の安全確保に努めてまいります。

また、橋の構造基準や通行人数等の表示、車いす利用者への注意喚起を実施するなど、利用者の安全確保に努めます。

(4) これまでに数千万円かけて整備している。バリアフリー化の全体像を示したうえで、今後どのように整備に取り組んでいくのか説明してほしい。

また、木道はメンテナンスを怠るとすぐに朽ちるという点をふまえて、今後どのような方針で施設を維持し、観光利用を考えているのか。指摘を受けたから途中で止めるということではなく、これをどう完成させて使うのか教えてほしい。

(回答)

平成 29 年度からみえ森と緑の県民税を活用し、菰野富士ふるさとの山環境整備事業を進め、バリアフリー木道 177m の整備を行いました（総事業費 98,286 千円うち市町交付金額 54,039 千円）。令和 3 年度工事において既設歩道と接続させることにより、これまでに整備した木道工の全区間の供用を開始し、健常者の方は、木道部分と既設歩道を使って周遊可能になるとともに、車いすの方なども、木道部分の往復が可能となりました。

今回採用した木道は、紫外線や雨などの湿気にも強く、腐朽の心配が少ない部材を使用しており、屋外構造物として必要な耐久性を有していますが、委員会でご指摘の通り、維持管理については大変重要であると考えております。隣接する駐車場と併せて、定期的に当町職員による見回りを行うとともに、利用者が異常を発見した際に連絡が入るように、安全看板に記載を行い、危険個所の早期発見及び早急な対応に努めます。

また、今後は、菰野富士を活動エリアとする 4 企業による企業の森活動と併せて、森林教育活動の拠点としての活用を図り、利用者に対して制度や施設への理解を深めていただけるよう普及啓発に取り組みたいと考えています。

なお、今後の菰野富士及びバリアフリー化を含む周辺のさらなる環境整備については、これまで整備を行った、みえ森と緑の県民税を活用していない箇所も含めて、改めて町で議論を進めていく予定です。

また、町のみえ森と緑の県民税基金の活用計画では、これまでに積み立てた基金を活用して、令和 5 年度に本事業に取り組む計画となっておりますが、議論の結果をふまえて、基金活用計画についても再度検討する予定です。検討の結果、みえ森と緑の県民税を活用して、さらなる整備に取り組むこととした場合には、県の事前ヒアリング（12月）において、事業の全体計画を明確に示して承認を得るとともに、直近の評価委員会においてその内容を報告させていただきます。

（5）施設整備の効果をどのようにはかっていくのか。

（回答）

供用開始から 3 カ月程が経過しましたが、コロナ禍による軽登山ブームもあり晴天時には多くの登山客が訪れ、新たな登山ルートとしての認知が進んでいることを実感しています。GW時には隣接駐車場の利用台数をカウントするため 1 日 1 回駐車台数の観測を行い、最大で 24 台の利用を確認しました。駐車場利用者が全員遊歩道を活用しているとは限りませんが、みえ森と緑の県民税を活用した遊歩道があるという認知にはつながっていると考えています。

なお、引き続き、施設の使用状況の把握に努めるとともに、利用者へのアンケート調査なども検討します。

また、現在は新型コロナウイルス感染症の影響のため、県外からの企業の森活動が一部制限されている状況ですが、感染状況を見極めながら、周辺森林の整備活動と併せ、菰野富士の PR に繋がるイベント等を企画し、施設整備の効果をより高めるよう努めてまいります。

（6）令和 3 年度の施工箇所について、車いすの方はそこで U ターンするのであれば、スロープ（木道工）で施工する必要はなかったのではないかと。健常者の周遊を考えるのであれば、階段で十分だったのでは。

(回答)

令和 2 年度までに完成した区間には傾斜がついており、終点部において車いすを安全に転回することができないため、令和 3 年度施工箇所において、車いすが安全に転回できる水平箇所を確保する必要がありました。

なお、平面で車いすが回転しやすい寸法として 1.8m が推奨（国土交通省 バリアフリー施設の整備基準）されており、これに基づき、車いすが回転しやすく、車いす同士がすれ違えるようなスペースを確保するため、水平を確保した木道工（幅員 2.0m）により既設歩道と接続しました。

(7) 木道工の単価について、諸経費が高すぎるように感じる。

(回答)

諸経費率については、「土木工事工事費積算要領及び基準の運用（国交省）」の「公園工事」を使用しています。

(8) 受益者数について、昨年は 255 万人→今回は 6 万 5 千人となった理由は？

(回答)

2019 年の新名神高速道路菰野インターチェンジの開通を受け、町全体を観光地として魅力アップを図ることを目的とした事業の一環として整備を行っており、当初は菰野町全体の観光入込客数を受益者数としておりました。

評価委員会の指摘を受け、令和 3 年度より受益者数を菰野町全体での入込客数ではなく、菰野富士周辺地域を対象とした入込客数に見直しを行いました。

(9) 木道工の構造を決定する設計段階で、どれだけの利用者が来ることを想定したのか。

(回答)

設計段階では、利用者は 4 万人を想定しており、木道の構造については、前述のとおり、各種基準に基づき安全性に配慮して設計しています。

doozer

Wood Plastic Composite

再生木材 「ドゥーザーウッド」

自然の木材と同じような暖かみを感じられるこの再生木材「ドゥーザーウッド」にはさまざまな形状・色があります。導入以来、主にデッキ（床）材としてお使いいただけてきましたが、最近では無機質に感じられるビルや倉庫などの建造物の壁面や屋根にルーバー材として用いられることが増えてきました。建物の存在が木々の緑になじみ、街の雰囲気も和らぎます。地面からの日光の反射も温度上昇も軽減できます。紫外線や雨などの湿気にも強く、腐朽することもあります。保護塗料を塗る手間も省け、メンテナンスも楽にできます。天然木材に負けない風合いを持つ再生木材「ドゥーザーウッド」は、空間設計のお役に立つ素材です。

廃木粉
50%

リサイクル
ポリエチレン
45%

その他
5%

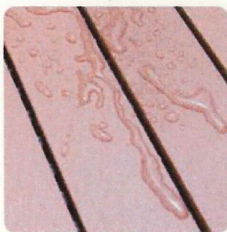
主顔料とその増添加物 3.5%
UV抑制剤 1.0%
酸化防止剤 0.5%



Green Products/ 環境配慮製品

「ドゥーザーウッド」は廃木粉とリサイクルプラスチックを混ぜ合わせ成型した「木材・プラスチック再生複合材（Wood Plastic Recycled Composite）」です。見た目は天然木材に似ていますが、その性質はまったく異なります。主材料は、電線の皮膜カバーとして使用されたポリエチレンと家具工場等から排出された廃木粉から作られています。木粉配合率が50%で天然木材に近い風合いがあります。天然木材と違い、腐食や腐朽菌によるメンテナンスを軽減することができます。

3つの強さと環境へのやさしさを持つ素材



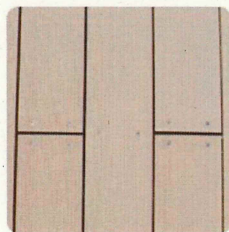
水に強い

雨などの水に強く、海や川、プールなどの水がかかるところでのデッキ、木道、階段に最適です。天然木材にはない水に対する強さを発揮します。



光に強い

天然木材は年数が経つと色が変化しやすく、割れが起きますが、ドゥーザーウッドはチヨキやクラッキングが発生しません。



擦れに強い


天然木材に比べ、摩擦に強い。熱にも強く、タバコなどの火の延焼がありません。重いす対のフロー等に適しています。

ドゥーザー ルミナス ウッド

ほんのりやさしく光ってサポートします

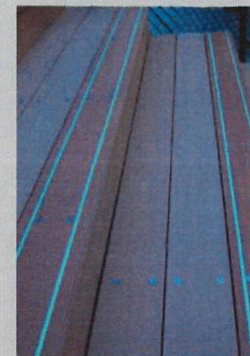


再生木材ドゥーザーウッドに蓄光顔料が練り込まれた商品です。日中の光エネルギーを顔料に溜め込み、暗くなると発光します。階段の段鼻に取付けると視認性が高くなり、安全に階段の昇り降りができます。また、アイデア次第でさまざまな演出ができます。

doozer color  8ページからの実写写真内で「ドゥーザールミナスウッド」を使用している場合、左図のように2本線の入ったカラー表示をしております。



蓄光ライン



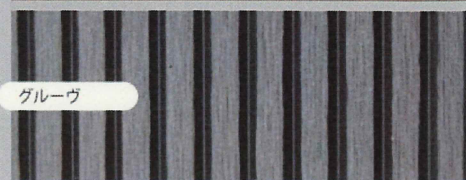
表面仕上げ

なめらかな手触りとすべりにくさ

ドゥーザーウッドには2種類の表面仕上げがあります。「サンディング加工」の手触りは天然木材に似ています。表面はなめらかで、ささくれも出にくいので安心してお使いいただけます。「グルーブ加工」は彫り込みの筋が入っています。凹凸面があるので雨の日でもすべりにくくする効果があります。ラインが入っているように見えるので、階段の段鼻にお使いいただくとドゥーザールミナスウッドと同じく、昇降時の安全を図ることができます。



サンディング



グルーブ

カラーバリエーション

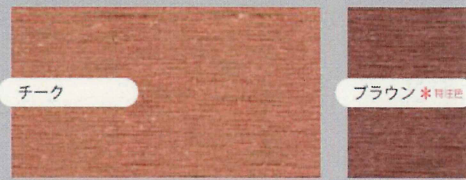
天然木材のような暖かみのある色

ドゥーザーウッドには6種類の色をご用意しております。天然木材のような暖かみのある発色でデッキなどの床材によくお使いいただいております。落ち着いた色あいでその場の雰囲気に馴染みます。数種類の色を用いて、デザインすることも可能です。

*特注色について プラウン・ブラック・グリーン色は特注色のため、取寄せに約60日かかります。ご了承ください。



チーク色とレッドウッド色の組み合わせ



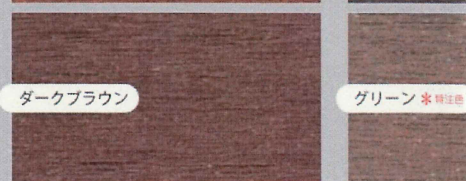
チーク

ブラウン *特注色



レッドウッド

ブラック *特注色



ダークブラウン

グリーン *特注色

構造物の耐久性を高めるためにさまざまな素材を探求しています

鋼材

Steel

構造材としては最もポピュラーな素材です。当社では、桁橋・トラス橋・木道等の構造材に使用しています。屋外構造物に使用する場合は、発錆しやすいので溶融亜鉛メッキ処理を施して使用しています。



物性値・許容応力度等については「道路標示方書」「建築基準法」等に準拠して設計します

再生木材 (doover wood)

Wood Plastic Recycled Composite

当社の取り扱う「ドゥーザーウッド」は廃木粉とリサイクルプラスチックを混ぜ合わせ成型した「木材・プラスチック再生複合材」です。見た目は天然木材に似ていますがその性質は全く天然木材と異なり、腐食や腐朽菌によるメンテナンスを軽減することができます。



ドゥーザーウッドの物性値

		試験方法	JIS 性能値	物性値
密度・比重	比重	JIS K 7112	0.8~1.5	1.4
吸水特性	吸水率	% JIS A 5741	10 以下	0.0
	吸水長さ	% JIS K 5741	3 以下	0.0
強度	曲げ強さ	Mpa JIS K 7171	20 以上	34.5
	曲げ弾性率	Mpa JIS K 7171	—	3740
	圧縮強さ	Mpa JIS K 7181	—	38.5
	せん断強さ	N/mm ² JIS K 7214	—	17.5
シャルピー衝撃試験	kJ/m ² JIS K 7111-1	0.5 以上	3.9	

GRP

Glassfiber Reinforced Plastic

GRPはガラス繊維と樹脂の複合体で強靱性・軽量性・耐腐食性・耐衝撃性、電気絶縁性など優れた特性を持っています。鋼やコンクリート、アルミ、木材などの従来の構造部材に比べ、GRP引抜材は耐腐食性と軽量性に優れています。紫外線や風雨、塩害にさらされてもGRP自体が侵されることはなく、物性値が劣化することはありません。

当社では 2007 年以来、公園内のボードウォーク (木道・棧道・デッキ・棧橋など)、人道用橋梁、パーゴラなどの主構造材や構造物の床板、高欄、ルーバーなどにGRP引抜材を使用しています。全国 100 以上のプロジェクトでご使用いただいています。



GRP引抜材の物性値

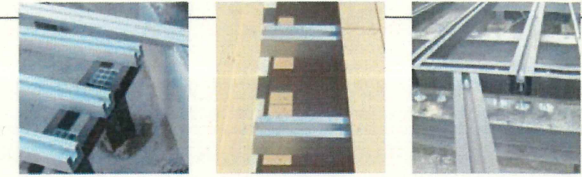
		長さ方向 (引抜方向)		横方向 (横断方向)		軸方向の許容応力度	
		短期	長期	短期	長期	短期	長期
引張強さ	Mpa	230-380	40-60	175-290	70-115		
曲げ強さ	Mpa	230-380	40-60	175-290	70-115		
せん断強さ	Mpa	28-35	*(38-50)	21-26	8-10		
圧縮強さ	Mpa	220-350	80-120	170-265	65-105		
引張弾性係数	Gpa	15-28	5-7	(断面形状により異なります)			
圧縮弾性係数	Gpa	16-23	5-10	(断面形状により異なります)			
曲げ弾性係数	Gpa	14-24	5-7	(断面形状により異なります)			

*Shear Strength By Punch(Perpendicular to laminate face)

アルミ合金

Aluminum Alloy

アルミ合金は軽量で強度が高く、耐食性も優れているので、当社では小規模橋梁や木道の構造材に使用しています。軽量で作業性が良く、現場においても切断や孔開けなどの加工が可能なので、重機の進入が難しい山間部の木道の構造材に適しています。当社では、「ハニカム支柱」「ハニカム根太」等のオリジナルの押出型材を使用し、設計施工の効率を高めています。

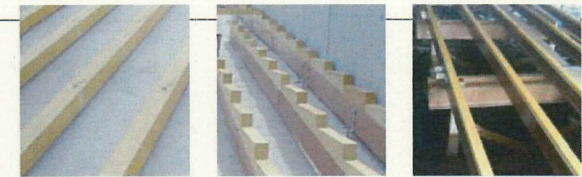


物性値・許容応力度等については「アルミニウム合金土木構造物設計・製作指針(案)」に準拠して設計します

グラスランバー

Glass Lumber

グラスランバーはプラスチック発泡体(硬質ウレタン樹脂)をガラス長繊維で強化した素材です。比重が 0.5 と軽量で耐久性が非常に高く、しかも木材のように加工できるのでデッキの根太材、枕木等に最適です。



グラスランバーの物性値

許容応力度		物性値	
	kN/cm ²		
曲げ強さ	1.40	比重	0.50
圧縮強さ	0.96	曲げ弾性係数	500 kN/cm ²
引張強さ	2.40	吸水量	6 mg/cm ³
せん断強さ	0.108	線膨張係数	0.8×10 ⁻⁶ (1/℃)

特徴

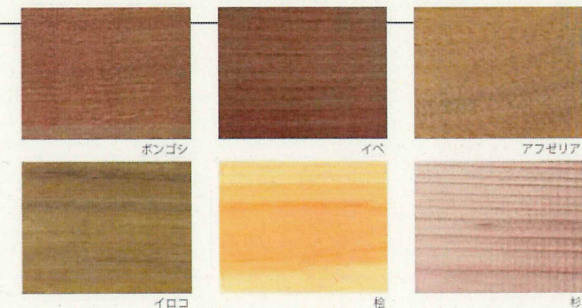
- 腐食しない
- 軽量である
- 加工性がよい
- 寸法安定性がよい
- 吸水しない

天然木材

Wood

当社では、外国産材(イベ、イロコ等)や国産材(檜、杉等)を使用しております。国産材においてはAAC処理やACQ処理など加圧注入防腐処理を施して使用します。外国産材については強度が高く、耐久性のあるハードウッドを用います。

天然木材の持つ温かさ、色合いはどんな素材にも勝りますが、耐久性について注意し、数年毎に点検・修復を行なってください。



木材の許容応力度比較表

材種	材種	比重	含水率 12%	曲げ強さ MN/cm ²	圧縮強さ MN/cm ²	せん断強さ MN/cm ²	曲げ弾性係数 MN/cm ²
広葉樹	ボンゴシ	西アフリカ産	1.10	2.5 (17.80)	2.00 (9.05)	0.20 (2.35)	1700
	イベ	南米産	1.06	2.5 (17.85)	2.00 (9.16)	0.20 (2.50)	1700
針葉樹	アフゼリア	西アフリカ産	0.85	1.7 (10.00)	1.30 (6.80)	0.14 (1.20)	1300
	イロコ	西アフリカ産	0.70	1.1 (9.60)	1.00 (5.40)	0.10 (1.20)	1250
針葉樹	檜	日本産	0.44	0.9 (7.50)	0.7 (4.00)	0.07 (0.75)	900
	杉	日本産	0.38	0.75 (6.50)	0.6 (3.50)	0.06 (0.60)	700

()は材の最大強度

さまざまな素材を組み合わせ、 自然環境に最適な道を創ります。

ラスコジャパンの基礎工法で
こんな場所でも施工できます

- case 1 重機が進入できない場所
- case 2 自然環境を守りたい場所
- case 3 貴重な動植物が棲息している場所
- case 4 急斜面地で通常基礎では設置の難しい場所
- case 5 湿地帯で通常基礎では設置の難しい場所
- case 6 水の抜けない場所
- case 7 砂地等で通常基礎では設置の難しい場所
- case 8 桜や梅などの花を觀賞するための場所
- case 9 重要な史跡や大切な樹木がある場所
- case 10 地盤の凍結深度が深い場所
- case 11 岩盤など他の基礎工法では難しい場所



小瀬代の森（神奈川県） 使用材料：アルミ合金、再生木材
基 礎：ピンファウンデーション工法
多種多様な動植物が棲息している「小瀬代の森」に設置された木道。自然環境を第一に考え、基礎から構造材に至るまで耐久性に優れた木道になっています。



高欄

- ・天然木材
- ・再生木材
- ・アルミ合金
- ・GRP
- ・鋼材

床板・地覆

- ・天然木材
- ・再生木材
- ・GRP



環境にやさしい基礎工法

湿地帯などの軟弱地盤には **PIN FOUNDATION** / **ROCK FOUNDATION**
ピンファウンデーション / ロックファウンデーション

地中に深く打ち込まれた
スチールピンが
基礎を固定します

構造材
(根太・大引・支柱など)

- ・鋼材
- ・アルミ合金
- ・GRP

小口径のスチールピンを地中にある角度をもって打込むことによって構造物の支柱に必要な支持力を持たせる工法です。従来のコンクリート基礎工法は地面を大きく掘削し、重機で基礎ブロックを搬入するのが一般的ですが、この工法は重機を使用せず、人力で運搬施工設置でき、地面の大きな掘削もないので自然環境に与える影響が非常に少なく済みます。2010年2月に「ピンファウンデーション工法」は国土交通省の新技術情報システム（NETIS）に登録されました。

※図中の基礎は「ピンファウンデーション基礎工法」です。
※詳しくは「エコロジーファウンデーション」カタログをご覧ください。

道

木道
八ツ橋
階段
デッキ

伊勢志摩国立公園 横山展望台

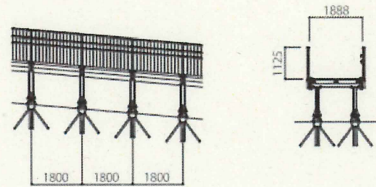
三重県志摩市



形状 / 寸法 (mm)

側面図

断面図

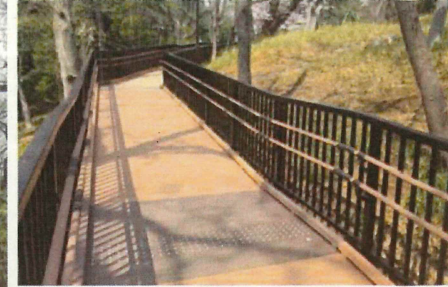


使用材料

使用箇所	材料名称
笠木 床板 根太	国産材
支柱 大引 高欄柱	鋼材 (リン酸亜鉛処理)
縦格子 補助手摺	

多摩川台公園

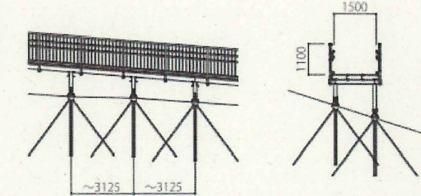
東京都大田区



形状 / 寸法 (mm)

側面図

断面図

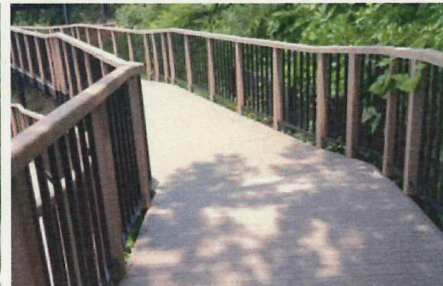


使用材料

使用箇所	材料名称
床板 地覆 補助手摺	再生木材
笠木 高欄柱 下棧	アルミ合金
根太 大引 支柱	

桜ヶ丘公園

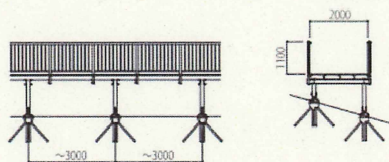
東京都多摩市



形状 / 寸法 (mm)

側面図

断面図

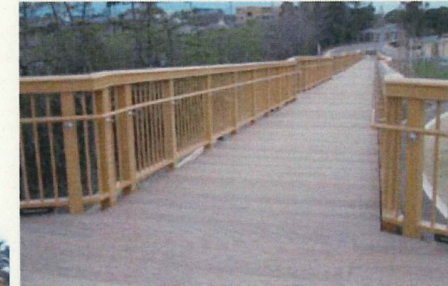


使用材料

使用箇所	材料名称
笠木 高欄柱 床板	再生木材
笠木(芯材) 高欄柱(芯材) 縦格子	アルミ合金
下棧 根太 大引	
支柱	

碧南市臨海公園

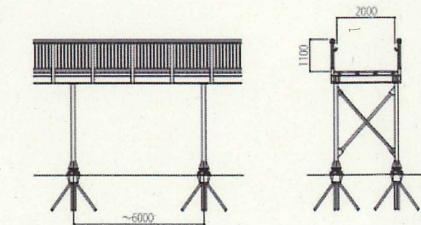
愛知県碧南市



形状 / 寸法 (mm)

側面図

断面図



使用材料

使用箇所	材料名称
笠木 丸手摺 高欄柱	GRP
縦格子 格子受	
床板 根太	外国産材
主桁 高欄受け 横桁	鋼材
支柱 斜材	



注意喚起掲示 設置状況

